令和6年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の周知と実践。
- ・教学理念「夢と志」の周知と実践。元気、やる気が出て夢中になるものを見出す。
- ・教学姿勢(イメージツリー)の共有と実践
- ・夢と志を育てる“仕掛け”の創造と実践。

2 中期的目標

1 教育力の向上 学修成果(できるようになる) 修学成就(笑顔での卒業)

- (1)校訓「明朗・誠実・友愛」を生かした人間力の育成
- (2)教育の質向上、学修成果の可視化(〇〇ができるようになる)
 - ・教員のスキルアップ
 - ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践 (3 時間/週の授業外学習 100%を目標に学習習慣の定着を図る)
 - ・教育デジタル化普及対応
 - ・課題解決型学習の実践 (SDGs推進 自主的エコ活動)
 - ・進路実績の向上
 - ・グローバルな視点の教育実践 (海外語学研修準備)
- (3)課外活動・クラブ活動の充実
 - ・クラブ加入率70%をめざす
- (4)卒業率96%
 - ・入学した生徒全員を卒業させることを目標に、高校生活満足度調査の結果を検証、今後の課題を検討し、改善策を全体で共有する。(延べ数)の合格を目指す。

2 教育体制の充実

- (1)生徒在校総数1,000人(2027)達成推進
 - ・福科大高の特長発信(違いを際立たせる) “やる気と元気を引き出す”&コース特長
 - ・A 基礎(教学姿勢)の共有 実践
 - ・B 選ばれる理由(夢と志がベース)とその“仕掛け(武器)”を携えて
 - ・C 探しに行って 見つけて 育てる 早くから
 - ・全学広報活動“協働”
 - ・Open Campus、Website の質向上
 - ・子息女兄弟姉妹の入学促進
- (2)ニーズに応えるコースの追求

3 施設・設備等の充実 愛用

- (1)生徒本位の施設・設備の整備と愛用(遊休施設活用)
 - ・Learning Commons の増強
 - ・ICT 環境整備
- (2)配慮を要する生徒支援体制の充実
 - ・障害者差別解消法の尊重

4 地域共生 社会に愛され 成長する学園

- (1)地域連携活動の実践
 - ・地域連携公認プログラムの推進
 - ・総合的な探究の時間での取組みを推進
 - ・地域主催行事への積極参加

5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園の相互協力 尊重 (職員 学生 生徒 園児)

- (1)各校園との連携推進
- (2)内部進学の実現 (学年 30%以上目標)
- (3)藤蔭会活動の活性化 (藤蔭会 80 周年(2025)記念行事の推進)

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育力の向上 学修成果(できるよ)になる()・修学成就(笑顔での卒業)	(2)教育の質向上 学修成果の可視化 ・教員のスキルアップ ・教育デジタル化普及対応	・教科の研修や ICT 機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内学外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。	・教科の研修、外部模試活用研修、人権研修など実施すること。	・iPad の使用が3学年に行き渡り、授業等だけでなく、授業外学習として、iPad で課題配信、課題回収も定着。連絡用ツールとしても活用。教員間でスキルの共有も継続中(△) ・8月に「起立性調節障害」、および「採点支援システム」について職員研修を行った(○)	今後も努力の継続を希望する。(△)
	・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践	・年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート(7月:1学期期末考査後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取り組む。 ・学外の ICT 研修などにも積極的に参加し、公開授業を通し、内容を教科で共有する。 ・3時間/週の授業外学習 100%を目標に学習習慣を定着させ、学力向上に繋げる。	・授業アンケートの総体平均値が 80 点となること。 ・3 時間/週の授業外学習を 100%に近づけること。	・授業アンケートでの平均が78.9点(昨年度 81.2点)平均値が下降傾向となりつつあり、わかる授業への追求のため、更なる教材研究が必要(△) ・授業外学習 3 時間/週(1 日平均 30 分以上)している生徒は、62.9%(昨年度 56.4%)昨年度よりは上昇しているが、進路、教科による組織的な取り組みが必要(×)	研修を有意義に活かすことが重要(○) わかる授業の為に努力する事を希望する(△) 少しずつではあるが、増加していることを評価(△)
	・課題解決型学習の実践	・「思考力・判断力・表現力」を育むために、生徒が自ら課題を見つけ、その課題を解決する過程で様々な知識を得ていく学習方法を取り入れる。	・学期に1回は実施	・「知識・技能」中心の授業になる傾向にある。一方、「総合的な探究の時間」では、社会的課題に取り組んだ探究学習プログラムを実施した(△)	知識以外の部分の問いかけも重要(△)
	・進路実績の向上	・進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	・卒業生徒の進路決定率 100%。 ・関関同立 20 名と産近甲龍 80 名以上の合格(延べ数)。	・進路決定率 99.3% (○)(昨年度 97.5%) 関関同立12名合格 (△)(昨年度12名) 産近甲龍 37 名合格 (×)(昨年度33名) 目標に向け、各コースでの取り組みの検討が必要	99.3%は、努力の結果である(○) 大学選択の多様性もあり、関関同立や産近甲龍だけでない見方も必要(△)
・グローバルな視点での教育の実践	・英語検定を積極的に受験させる。 ・異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	・英語検定を積極的に受験させる。 ・総合的な探究の時間に異文化理解の講座を設ける。	・英語検定年間受験者695名 2級合格12名 準2級合格39名 (△) 合格者数はほぼ横ばいであった。合格率向上のために AI による英語力スキルアップアプリを導入し、活用中である。 〔 昨年度受験者762名 2級合格15名、準2級35名合格 〕	更なる合格率の向上を目指してください(△)	
(3)課外活動・クラブ活動の充実	・生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・生徒会行事について見直しを進め、生徒会担当教員で討の上充実させる。	・クラブ入部率70%以上であること。	・HP やインスタグラムを利用して各クラブ活動(活動時間、活動場所等)の紹介を行った。 ・クラブ入部率49.7%(昨年度52.7%) 魅力あるクラブ作り、指導者の育成、生徒会を中心とした働きかけが必要である(×)	グローバルの観点からの取組みを評価(○) SDGs の観点から評価(○) さらなる入部率向上が必要(×)	
(4)卒業率96%以上	・卒業率 96%以上を実現する。 ・高校生活満足度調査(10月:2学期中間考査後実施)については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	・卒業率 96%以上を実現する。 ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率が 65%以上であること。	・卒業生は305人(入学時344人)、卒業率は88.7%であった(×)(昨年度卒業率93.1%) コロナ世代(中学1年~)により集団生活になじめない生徒の増加が背景にある。 ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率 75.2%(昨年度74.8%)で年々上昇している(○)	卒業率の低下に危機(×)	

2 組織安定	<p>(1)生徒在校総数1,000人(2027)達成推進</p> <p>(2)ニーズに応えるコースの追求</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特長を発信。“やる気と元気を引き出す”&コース特長 入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会、体験入学のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 選ばれる理由と“仕掛け”を策定 新入生 350 名、生徒総数 1000 名を堅持すること。 入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の 2478 名を上回ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校案内、HP 等において教学理念「夢と志」を積極的に発信(○) 学校行事の見直しや総合的な探究の時間の充実に向けて鋭意検討中である(△) 令和6年度の生徒総数は969名(昨年度1008名) 新入生282名(△) 令和7年4月の生徒総数は949名 新入生324名 令和7年度の入学生がやや持ち直す。奈良県授業料無償化により専願減少。大阪府立高校での定員割れにより、併願の戻りも期待薄。 令和6年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2923名(昨年度2478名)(○) 「入試問題の解説」は継続実施。クラブ体験入部を実施。11クラブ参加(生徒・保護者189名参加。昨年度61名)。早くから中学生に対してクラブ体験入部を案内し、食堂体験も行った(○) 	<p>今後の仕掛けに期待(△)</p> <p>新入生が減るも、子どもの数が減少している影響もある(△)</p> <p>本校の魅力を知ってもらえた結果である(○)</p>
3 施設・設備等の充実 愛用	<p>(1)生徒本位の施設・設備の整備と愛用(遊休施設活用)</p> <p>(2)配慮を要する生徒支援体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Tama Square」でのクラブ発表などを促進する。 「立教館」の活用促進 特別支援コーディネーターを中心に、合理的配慮が必要な生徒への個別対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 活用の状況 活用の状況 対応の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽部の「たそがれコンサート」、ギター部・ダンス部・和太鼓部の「ゲリラライブ」を複数回実施。(○) 家庭科の時間で浴衣の着付けに利用、「総合的な探究の時間」でクラスが活用、体験入学で「書道体験」の会場として利用した。(○) 合理的な配慮や支援が必要な生徒には支援計画を作成し、保護者とも連携を取った対応を行っている。(○) 	<p>活気がある(○)</p> <p>幅広い活動で利用されている(○)</p> <p>きめ細やかな対応である(○)</p>
4 愛され成長する学園 地域共生社会に	<p>(1)地域連携活動の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1回目は全校生徒(希望者)対象で5月下旬実施予定。 地域と連携し、青少年講座・スポーツ教室を実施。 歴史・科学の青少年講座を実施する。 卓球・バレーボール・サッカーのスポーツ教室を実施。 地域の市民フェスティバルに参加する。 バスケットボールの U-15 のクラブチーム対抗の交流戦を企画し、開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り実施する。 予定通り参加する。 新たに実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月に美化ボランティアを実施。158名の生徒が参加し清掃活動に取り組んだ(○) 地域と連携した青少年講座やスポーツ講座は予定通り実施。「チアファミリーフェスタ」にダンス部、商工会議所青年部新年会に和太鼓部が披露。「柏原市民フェスタ」は悪天候の為中止。新たにバスケットボールクラブチーム交流戦を実施。8チームが参加した(○) 	<p>地域に貢献。地域に根付いた活動(○)</p>
5 各校園の相互協力 尊厳(職員 学生 生徒 園児) 学園総合力の向上(学園ファミリー意識)	<p>(1)各校園との連携推進</p> <p>(2)内部進学の実績(学年30%以上目標)</p> <p>(3)藤蔭会活動の活性化(80周年記念行事の推進)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 PTA 主催併設大学・短大見学会を実施する。 体験入学での大学、短大講座 文化祭における大学・短大の紹介ブースの開設 保育進学コースの短大・幼稚園との連携など、担当者間での連携を密にする。 日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。 学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 藤蔭会80周年記念行事に向けて、記念行事内容と進行などを協議。 退職された教職員や卒業生への案内方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容と生徒の満足度を基準とする。 併設大学・短大への進学者 30%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 併設大学・短大のみのガイダンスを実施。 高大連携授業において、春学期で1名、秋学期で7名の生徒が単位を取得した(○) 保育進学コースでは、高幼連携で放課後保育ボランティアを実施(○) 高短連携で三年間の口腔ケアを行う「お口の健康プログラム」を実施した(○) 卒業生305名に対して併設大学・短大への進学者数90名(29.5%)(○)(昨年度 29.7%) 高等学校の HP と藤蔭会の HP の紐づけを行い、卒業生向けのメッセージや80周年記念行事について掲載(○) 	<p>生徒にとって、高校で大学単位を取得できることは、良いことである(○)</p> <p>口腔ケアは学園ならではの連携(○)</p> <p>目標値に達している(○)</p> <p>HPの紐づけは有効(○)</p>

4 学校教育自己診断の結果

学校教育自己診断の結果

(1) 学校運営

【教職員】

- 「建学の精神『感恩』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 84.0%
- 「教学理念『夢と志』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 76.0%
- 「学年主任・コース主任制度はよく機能している」 89.6%

【保護者】

- 「建学の精神『感恩』を保護者はよく理解している」 75.6%
- 「教学理念『夢と志』を保護者はよく理解している」 79.4%
- 「本校のホームページ・Classi を保護者はよく見ている」 84.3%
- 「本校では個人情報保護法の観点から子どもの個人情報管理について十分配慮がなされている」 93.6%
- 「施設・設備は充実している」 95.4%

(2) 学習指導

【教職員】

- 「シラバスに従い計画的に学習指導を実施している」 85.4%
- 「各コースに応じた学習指導を行っている」 81.3%
- 「学習面について学力向上のために手厚い指導を行っている」 72.9%

【保護者】

- 「各コースに応じた学習指導を行っている」 90.4%
- 「子どもは学習に対して意欲が高まっている」 64.3%

(3) 進路指導

【教職員】

- 「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」 91.7%
- 「生徒に対する進路指導は、きめ細くなされている」 79.17%

【保護者】

- 「子どもに対する進路指導は、きめ細くなされている」 80.0%
- 「大学、短大、専門学校や就職等の情報が進路説明会を通じて保護者に対してきめ細かく与えられている」 79.6%

(4) 生徒指導

【教職員】

- 「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています」 95.8%
- 「生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を日々行っている」 83.7%
- 「問題行動防止のための早期指導(個人面談、HR 指導、初期対応など)に学校全体で取り組んでいる」 75.5%
- 「文化祭・体育祭等で担任は、生徒と適切に関わりを持ち、指導を行っている」 85.4%
- 「クラブ活動は、全般にわたり活発に行われ、クラブ顧問として十分に指導している」 70.8%
- 「生徒・保護者等の悩みに誠意をもって対応している」 98.0%

【保護者】

- 「生徒指導において、家庭との緊密な連携がなされている」 71.6%
- 「本校は生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を行っている」 94.1%
- 「学校行事について様々な工夫がなされている」 86.6%
- 「クラブ活動は全般にわたって活発に行われ、クラブ顧問は熱心に指導している」 80.7%
- 「生徒は担任やクラブ顧問等に気軽に相談にのってもらうことができている」 79.6%
- 「保護者は担任やクラブ顧問等に気軽に悩みの相談にのってもらうことができている」 74.0%

(5) その他

【保護者】

- 「子どもをこの学校に入学させてよかった」 86.5%

5 学校関係者評価委員会からの意見

【評価された内容】

- ・教学姿勢(イメージツリー)については、保護者としても共感ができる。
- ・今年度の「起立性調節障害」への理解を深めた研修は評価。「起立性調節障害」や「難病指定の病気」に対する欠席日数への配慮についての対応は、ありがたい。
- ・一人ひとりのきめ細やかな進学に対する対応は、本当に難しいと思う。その中での進学率の数値は評価できる。
- ・若い世代には HP だけでなくInstagramでの情報発信は有効だと思う。
- ・昨年度同様、少子化の中で新入生が増加しているのは、先生方の日々の活動が評価されているのだと思う。
- ・スマホの持ち込みが可能となったが、最近スマホ歩きなどの携帯を触りながら登下校する生徒数は、以前よりは少なくなっているように思う。
- ・本校の生徒が困っている人への親切な対応の話を聞いた。
- ・高大連携授業で、高校在学中に大学の単位を取得できることは、本当に生徒にとって良いことである。
- ・先生方が誠実に生徒の対応をされていることが一番の評価である。
- ・電車内のマナーも以前に比べると本当に良くなっている。

【改善が必要な内容】

- ・卒業率の低下は本当に危惧している。
- ・SNS での本校について悪い評価を書かれている(先生により差がある)。もちろん相性もあると思うが、先生方が努力されていることが伝わっていないことがもったいない。
- ・授業アンケート評価が下がってきている。教えることの大変さとそこに努力されている先生方には頭が下がる思いであるが、わかる授業への取り組みを期待する。

【その他】

- ・先生方の働き方に直結するクラブ活動の在り方が気になっている。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。